

大使館情報

2023年5月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢
- (2) 経済政策等
- (3) 金融政策
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

2. ブラジル政治情勢（4月の出来事）

【内政】

- (1) サンタ・カタリーナ州における児童惨殺事件
- (2) ルーラ大統領就任100日目の寄稿
- (3) PP（進歩党）、União Brasil、PDT（民主労働党）ら9党による政党連合（下院）の結成
- (4) ディアス大統領府安全保障局（GSI）長官の辞任及びアマロ・ドス・サントス新長官の任命
- (5) ブラジリア襲撃に関する議会合同調査委員会（CPMI）の設置

【外交】

- (1) 日・ブラジル首脳電話会談
- (2) ルーラ大統領の訪中
- (3) ルーラ大統領のアラブ首長国連邦訪問
- (4) バイデン米大統領、アマゾン基金に5億米ドルの供与を発表
- (5) ルーラ大統領のポルトガル訪問
- (6) ルーラ大統領のスペイン訪問
- (7) ルーラ大統領によるペニャ・パラグアイ大統領候補への当選の祝辞

3. 4月のトピックス

- (1) REN パラナ・ネットワーク会合の開催（4月20日）
- (2) 林大使のリオデジャネイロ市訪問（4月26～27日）

4. 大使館からのお知らせ

- (1) 在伯公館 SNS リンク一覧
- (2) 外務省 海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

1. ブラジル・マクロ経済情勢

(1) 経済情勢（4月発表の経済指標）

- (ア) 2月の鉱工業生産指数は前月比▲0.2%、前年同月比+2.4%となった。
- (イ) 2月の小売売上高は前月比▲0.1%、前年同月比+1.0%となった。
- (ウ) 2023年3月の拡大消費者物価指数(IPCA)は前月比+0.71%となった(前月:+0.84%)。直近12か月累計は+4.65%となり、前月(同+5.60%)から上昇幅は0.95%ポイント縮小した。
- (エ) 失業率(1月~3月)は8.8%となり、3か月前(2022年10~12月)の移動平均7.9%から0.9%ポイント上昇。また前年同期(2022年1月~3月)の11.1%から2.3%ポイント低下した。
- (オ) 伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査(Focus調査)について、4月28日時点で、GDP成長率予測については、2023年は+1.00%(前週から0.04%ポイント上昇)で、2024年は+1.41%(前週から変わらず)となった。インフレ率については、2023年は6.05%(前週から0.01%ポイント上昇)で、2024年は4.18%(前週から変わらず)となった。

(2) 経済政策等

- (ア) 予算企画省は、4月14日、2024年の予算方針案を議会に提出した。
- (イ) 政府は、4月18日、現行の歳出上限に替わる新たな財政運営枠組についての法案を議会に提出した。

(3) 金融政策

5月2日及び3日に開催された中央銀行金融政策委員会(Copom)において、政策金利であるSelic金利を13.75%に据え置くことが決定された。次回会合は6月20日及び21日に開催予定。

(4) 為替市場（レートは伯中銀の公表値から算出）

- (ア) 4月の為替市場は4.91~5.08リアル/ドルで推移。
- (イ) 月の前半は4.91~5.08リアル/ドルで推移。インフレをはじめとする内外の経済動向や、新たな財政運営枠組を巡る動向等を材料にして、概ね上昇傾向で推移した。
- (ウ) 月の後半は4.94~5.06リアル/ドルで推移。新たな財政運営枠組を巡る動向を材料に概ね下落傾向で推移した。

(5) 株式市場

- (ア) 4月の株式市場は100,822~106,890ポイントで推移。
- (イ) 月の前半は100,822~106,890ポイントで推移。国内物価動向等を材料に概ね上昇傾向で推移した。
- (ウ) 月の後半は102,312~106,163ポイントで推移。内外の経済動向や新たな財政運

営卒組を巡る動向等を材料に上下し、概ね下落傾向で推移した。

2. ブラジル政治情勢（4月の出来事）

【内政】

（1） サンタ・カタリーナ州における児童惨殺事件

5日、サンタ・カタリーナ州ブルメナウ市において、斧を持った男が保育所を襲い、4～7歳の児童4名を惨殺するという事件が発生。ルーラ大統領は、大統領府で行われていた行事を中断し、1分間の黙とうを捧げた。その後、ディノ法務治安相、サンタナ教育相、アルメイダ人権相等の関係閣僚を招集して緊急会議を開き、学校、保育所等のパトロール活動に国家治安基金から1.5億リアルを拠出し、同様の襲撃事件が発生した際の対処方針を策定するための作業部会設置を決定した。

（2） ルーラ大統領就任100日目の寄稿

ルーラ大統領は、「伯は帰ってきた！（O Brasil voltou!）」と題する寄稿文の中で、「就任から100日間で、前政権から引き継いだ恐るべき事態を好転させることに成功した。それは正しい国の再建であった。伯は（ルーラ派とボルソナーロ派に）分断されていない。国を再建するためには国民の団結が必要である。我々は伯国民、特に飢餓に苦しんでいる3300万人もの人達が尊厳と生活水準を取り戻すため、休むことなく働き続ける。ボルサ・ファミリアは強化され、既に2100万世帯に給付が行われている。学校給食の予算は36%増額された。住宅供給プログラム（Minha Casa Minha Vida）や「より多くの医師（Mais Médicos）」プログラムも再開された。人種平等、人権擁護、文化促進、アマゾンの環境保護等の政策も再開された。また、政府は、インフラ整備に本年度だけで230億リアルを投資する。これは過去4年間の投資額より多い。残りの1360日は、より発展し、平等で調和の取れた国造りに邁進する」等述べた。

（3） PP（進歩党）、União Brasil、PDT（民主労働党）ら9党による政党連合（下院）の結成

12日、リラ下院議長（PP）と9つの政党の下院院内総務は、PP、União Brasil、PDT、PSB（伯社会党）、Solidariedade（連帯）、Avante（前進）、Patriota（愛国者党）、Cidadania（市民党）及び伯社会民主党 PSDB の9党が下院で政党連合を結成すると発表した。この政党連合の議席数は175であり、MDB（伯民主運動）-PSD（社会民主党）-Republicanos（共和党）-Podemos（民主倫理党）-PSC（キリスト教社会党）連合の142議席を抜いて、下院の最大勢力となった。

（4） ディアス大統領府安全保障局（GSI）長官の辞任及びアマロ・ドス・サントス新長官の任命

19日、ディアス大統領府安全保障局（GSI）長官（陸将）が辞任。5月4日、ルーラ大統領は、マルコス・アントニオ・アマロ・ドス・サントス陸軍大将を大統領府（GSI）長官

に任命した（同大將は、第2次ルセーフ政権で大統領府武官長を務め、ボルソナーロ政権では陸軍参謀本部長を務めている）。

（５） ブラジリア襲撃に関する議会合同調査委員会（CPMI）の設置

26日、パシェコ上院議長は1月8日のブラジリア襲撃に関する議会合同調査委員会（CPMI）設置の設置を決定した。

【外交】

（１） 日・ブラジル首脳電話会談

7日（ブラジル時間6日）、岸田文雄内閣総理大臣は、ルーラ大統領と電話会談を実施。岸田総理は、ルーラ大統領の就任に対する祝意を改めて述べた上で、来月のG7広島サミットのアウトリーチ会合において同大統領と国際社会の諸課題につき議論できることを楽しみにしている旨述べるとともに、経験豊富なルーラ大統領の同会合における積極的役割に期待する旨述べた。ルーラ大統領は、G7広島サミットへの招待に対して謝意を表明。

（詳細は以下の外務省HPをごらんください）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/la_c/sa/br/page6_000839.html

（２） ルーラ大統領の訪中（4月12～14日）

14日、ルーラ大統領は北京において、習近平国家主席と首脳会談を行い、両国の戦略的パートナーシップ及び経済関係を強化することで一致した。また、両国の間で人工衛星の共同開発、EVトラックの購入等に関する20の取極が締結された。なお、ルーラ大統領は、ウクライナ紛争に関し、「米国は戦争を奨励するのを止め、平和について語るべきである。EUは、プーチンとゼレンスキーを説得するため、平和について語るべきである。（調停を買って出る）国を見つける必要がある。伯と中国にはその用意がある」と共同記者会見で発言した。

（３） ルーラ大統領のアラブ首長国連邦訪問

15日、ルーラ大統領はアラブ首長国連邦を訪問し、同国のアル・ナヤーン大統領と首脳会談を行った。同大統領は、通商、スポーツ及びAIの分野における協力関係の強化、並びにCOP28について話した。

（４） バイデン米大統領、アマゾン基金に5億米ドルの供与を発表

20日、バイデン米大統領は「エネルギー・気候経済フォーラム」に出席した際、「今後5年間に亘り、アマゾン基金に5億米ドルを供与することについて米国議会の承認を求めると発表した。

（５） ルーラ大統領のポルトガル訪問（4月21～25日）

21日、ルーラ大統領一行は、リスボンに到着した。同大統領は22日、歓迎式典、レベロ・デ・ソウザ大統領との午餐会の後、7年振りとなる伯ポルトガル首脳会談に臨んだ。アントニオ・コスタ首相との首脳会談では、航空産業、教育、観光、エネルギー等に関する1

3の取極に関して署名式が行われた。

(6) ルーラ大統領のスペイン訪問 (4月25~26日)

25日、ルーラ大統領は、マドリードで開催された「伯スペイン経済フォーラム」に出席。
26日、ペドロ・サンチェス首相と首脳会談及び共同記者会見を実施した。

(7) ルーラ大統領、パラグアイ大統領選挙のペニャ候補の当選を祝福

30日、ルーラ大統領は、パラグアイ大統領選挙で与党コロラド党のペニャ候補が当選を受け、「幸運を祈る。団結、発展及び豊かさを伴う形での二国間関係と南米の強化に共に取り組みたい」とツイッターに投稿した。

3. 4月のトピックス

(1) REN パラナ・ネットワーク会合の開催 (4月20日)

20日、在クリチバ日本国総領事館は、REN パラナと共催で、総領事公邸に於いて女性起業家を招待したネットワーク会合を開催した。開会に際し、若枝総領事代理から、これまで日本政府は、日ブラジル両国の友好関係及び連携強化等を目的として、若手日系起業家のネットワーク形成を支援してきた。当館としてもパラナ日伯商工会議所青年部と連携し、昨年、REN パラナが正式に発足した旨を紹介。続いて、レスリー・イシイ REN ブラジル役員から、ブラジリアにおけるREN ブラジル設立の経緯等を紹介した上で、起業家ネットワークの意義を十二分に理解し、活用することが重要との挨拶があった。また、ハラ REN パラナ会長から、友情、尊重、信用に基づくREN ネットワークを活用し、企業が一層成長していくことを期待しているとの挨拶があった。



出席者一同



意見交換の様子



左から：ハラ REN パラナ会長、若枝総領事代理、
イシイ REN ブラジル役員



各出席者が自社製品を展示

(2) 林大使のリオデジャネイロ市訪問 (4月26~27日)

26日、林大使は、伯外務省リオデジャネイロ事務所兼外交史料館を訪問しマルシア・マール同所長と意見交換を行った。その後、ダニエラ・シャヴィエル・外交史料館長の案内にて日伯外交に係る史料数点の実物を含め、外交史料館内を視察した。続いて、伯を代表するシンクタンク・教育機関であるジェットウーリオ・ヴァルガス財団 (FGV) 本部を訪問し、カルロス・イバン・シモンセン・レアル・FGV 総裁と懇談した。さらに、伯海軍作戦部を訪問し、ヴァルディミルソン・ボルジェス・伯海軍作戦部司令官 (海軍大将) 等と、日伯間の防衛協力等に関して懇談した。続いて、リオデジャネイロ州政府庁舎を訪問し、ニコラ・モレイラ・ミッシオーネ同州政府文官長等と、日本と同州の関係強化等について協議した。

同日夜には、リオデジャネイロ日系協会を訪問し、同協会に対するバドミントンラケットの寄贈式に出席した。寄贈式の後、林大使及び式典参加者は、リオデジャネイロ日系協会の体育館において、早速寄付されたラケットを使用し、バドミントンの試し打ちを行い、同協会関係者と懇談した。



伯外務省リオデジャネイロ事務所兼
外交史料館訪問



ヴァルディミルソン・ボルジェス海軍作戦部
司令官 (海軍大将) 等との懇談



リオデジャネイロ日系協会に対するバドミントンラケット寄贈式



27日はリオデジャネイロ市バッハ・ダ・チジューカに所在するポンタル博物館を訪問し、ブラジル国内各地域にて収集されたブラジル民俗芸術作品を鑑賞し、ルーカス・バン・デ・ベウキ館長と懇談した。さらに、パウロ・バンデルレイ・テイシェイラ伯オリンピック委員会（COB）会長及びジョゼ・ロベルト・サンティーニ伯バドミントン連盟（CBBd）会長等と日伯スポーツ交流等につき意見交換を行った。

午後は、伯オリンピック委員会本部を訪問し、伯バドミントン連盟に対するバドミントンラケットの寄贈式に出席した。式典後、出席したリオデジャネイロ市シャクリーニャ地区にあるNGO「Miratus」の子どもたちにより、新しいラケットを使用しサンバ音楽に合わせたバドミントンの練習が披露された。また、同寄贈式にも出席したテイシェイラ伯オリンピック委員会会長の案内で、同委員会本部事務所を訪問した。

リオデジャネイロ日系協会及び伯バドミントン連盟に対する今回のバドミントンラケットの寄贈は、日本政府がスポーツを通じて国際貢献を行う「スポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）」の一環として日本バドミントン協会が取り組む、世界のバドミントン仲間にバドミントンのラケットを届ける「BADMINTON 4 TOMORROW」プロジェクトの一つとして実現した。



伯バドミントン連盟に対するバドミントンラケット寄贈式

4. 大使館からのお知らせ

(1) 在伯公館 SNS リンク一覧

在ブラジル大使館をはじめ各総領事館及び領事事務所では、SNSにて文化イベントを含め最新情報等を随時更新しています（以下リンク先をご参照ください）。

在ブラジル大使館：[facebook](#) [instagram](#) [YouTube](#)

在ベレン領事事務所：[facebook](#)

在マナウス総領事館：[facebook](#)

在レシフェ総領事館：[facebook](#) [instagram](#)

在リオデジャネイロ総領事館：[facebook](#) [instagram](#) [YouTube](#)

在サンパウロ総領事館：[facebook](#) [YouTube](#)

在クリチバ総領事館：[facebook](#) [Instagram](#) [YouTube](#)

(2) 外務省 海外安全ホームページ

(ア) 各国の危険情報や安全対策等海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点を公開しています。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(イ) 各公館で四半期毎に「海外安全対策情報」を公開しています。在伯大使館の情報（令和4年度第3四半期）は以下のリンク先から。

https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kaigai_anzen_taisaku.html

(ウ) 各在伯公館が「在外邦人向け安全の手引き ブラジル」を作成し公開しています。

https://www.anzen.mofa.go.jp/manual/brazil_manual.html

(3) ブラジル渡航情報

(ア) 危険情報・感染症危険情報

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo_259.html

●危険情報

最新更新日：2022年4月5日

以下の地域が「レベル1：十分注意してください。」となっています。

- ・ブラジリア連邦区
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏
- ・アマゾナス州大マナウス圏
- ・ロライマ州北部
- ・パラ州大ベレン圏
- ・ペルナンブーコ州大レシフェ圏
- ・バイーア州大サルバドール圏
- ・セアラ州大フォルタレーザ圏
- ・パラナ州大クリチバ圏
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市

●感染症危険情報

最新更新日：2023年5月8日

新型コロナウイルスの感染症危険情報について、世界の感染状況が総じて改善してきており、5日、世界保健機構（WHO）も「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を解除したこと等を踏まえ、8日付けで、全世界に発出しているレベル1（十分注意してください）を解除しました。

(イ) 安全対策基礎データ

最新更新日：2022年8月1日

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え
査証、出入国審査及び新型コロナウイルス関連情報や大使館、総領事館の緊急連
絡先を公開しています。

(ウ) テロ・誘拐情勢

最新更新日：2023年4月11日

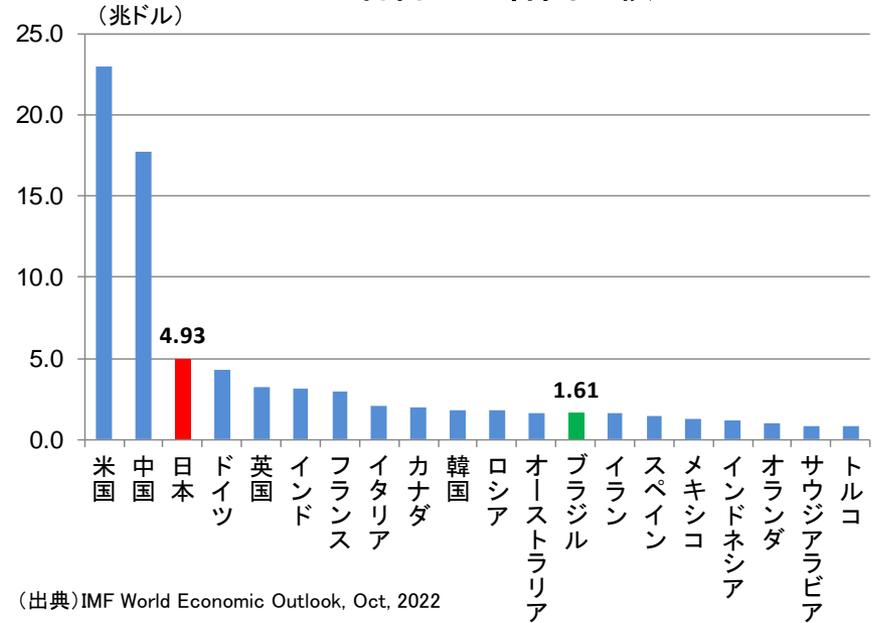
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html

ブラジル経済・二国間経済関係概観

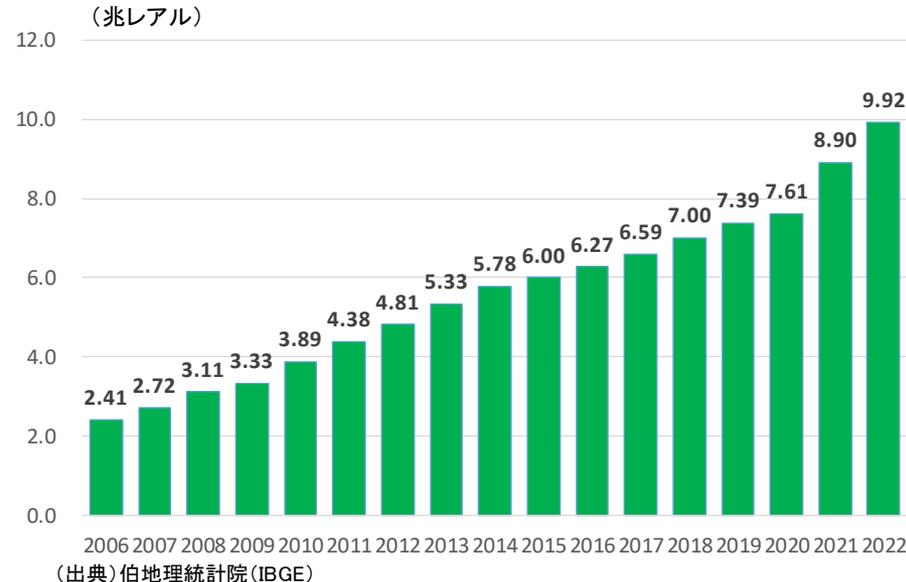
1. 経済構造

1. 人口約2億1,331万人、面積約851万km²(2021年)
2. 世界第13位の経済規模(名目GDP約1兆6,081億ドル(2021年):日本の約33%)。一人当たりGDP(約7,564ドル(2021年))は、日本の約19%。
3. 世界有数の農業・資源国であるが、産業別国内総生産(GDP)額では第三次産業(サービス業)が高いウェイトを占めている。
4. GDPを需要項目別で見ると、家計消費や総固定資本形成(投資)といった内需が成長に寄与している。

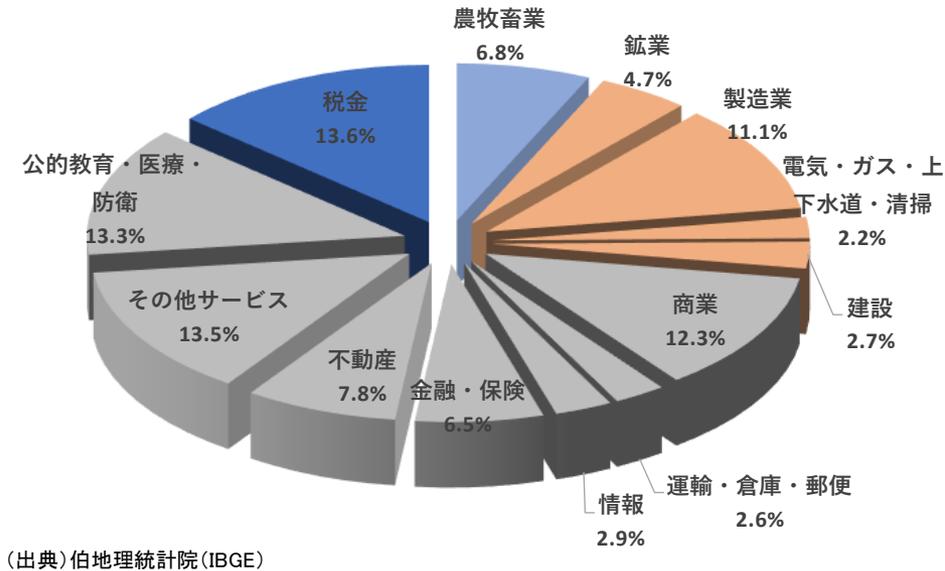
名目GDP各国比較



名目GDPの推移



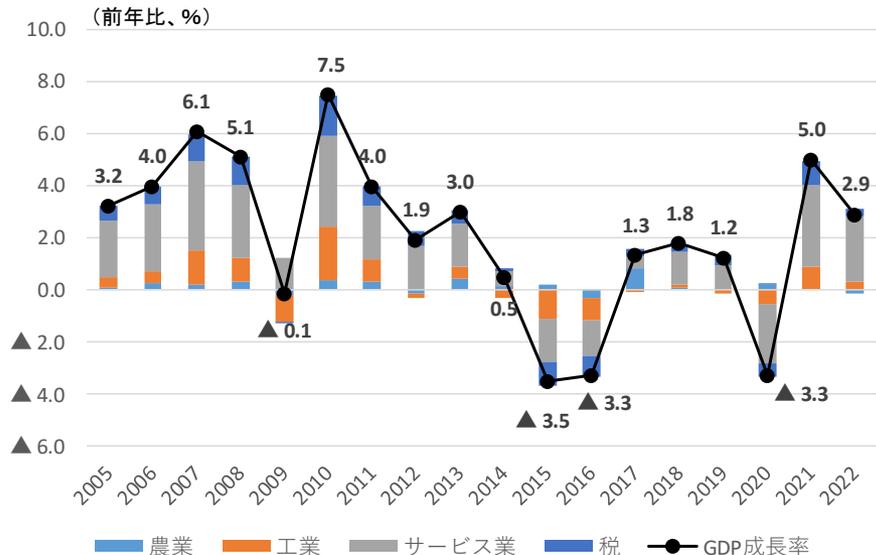
名目GDPの産業別構成比(2022年)



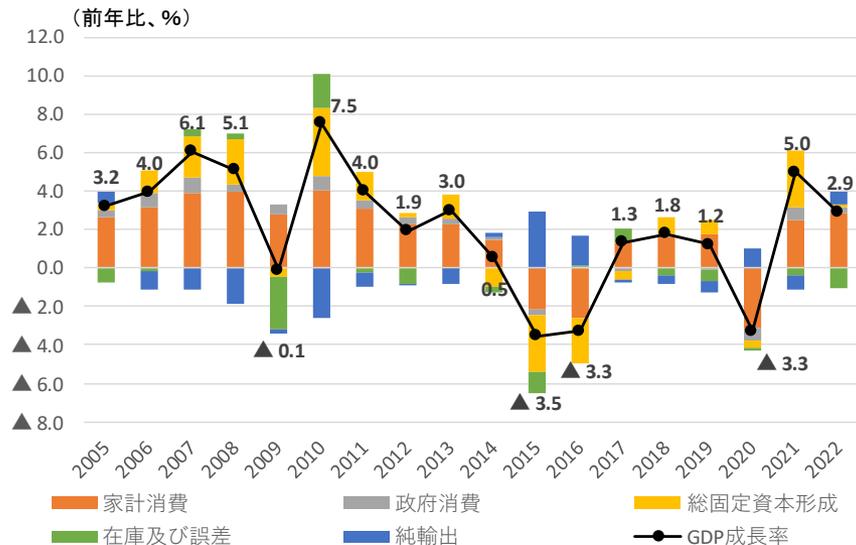
II. 経済の現状

ブラジル地理統計院(IBGE)が2023年3月に発表した2022年の実質GDP成長率は前年比+2.9%となった。同年第4四半期では、前期比▲0.2%(6四半期ぶりのマイナス)、前年同期比+1.9%(8四半期連続のプラス)となった。

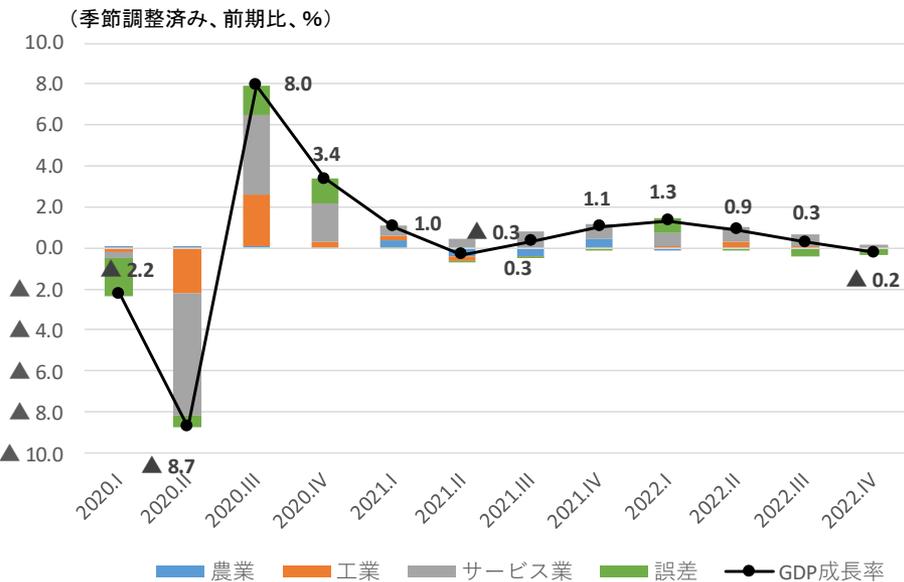
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(暦年)



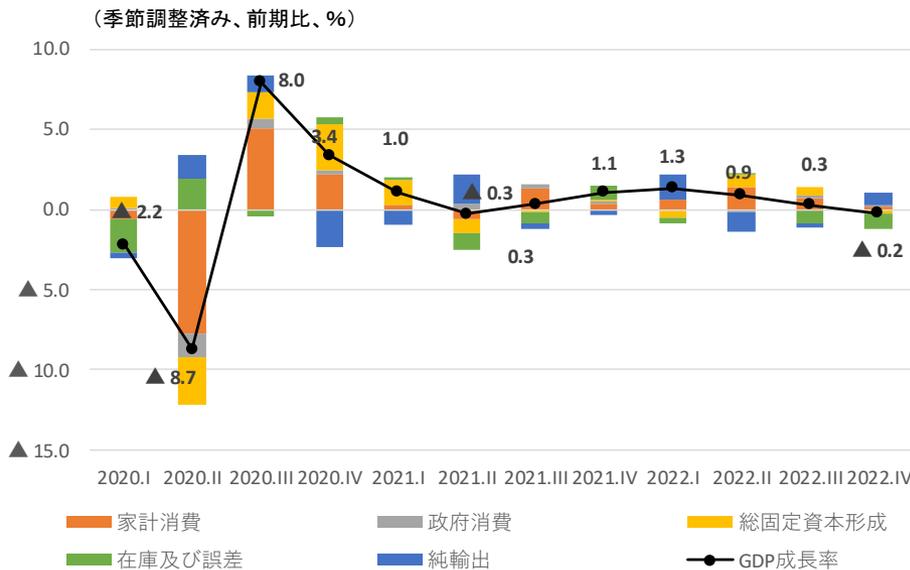
実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(暦年)



実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(四半期)



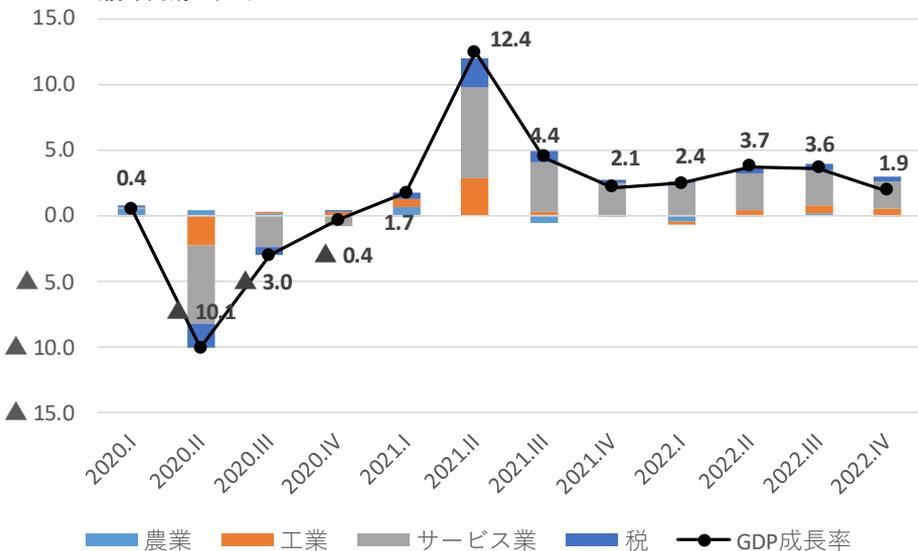
実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(四半期)



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「誤差」、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除いたもの。(出典) 伯地理統計院(IBGE) 2

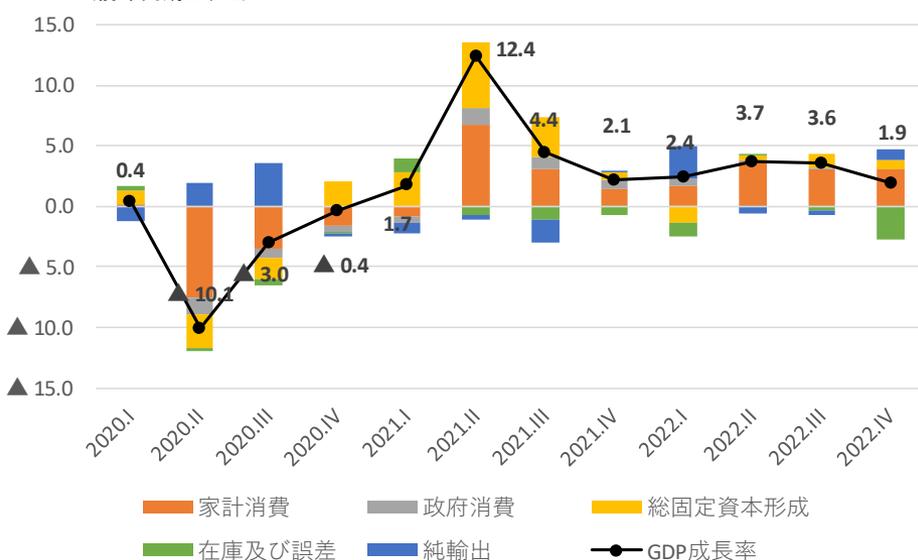
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移(四半期)

(前年同期比、%)



実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移(四半期)

(前年同期比、%)



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除いたもの。(出典)伯地理統計院(IBGE)

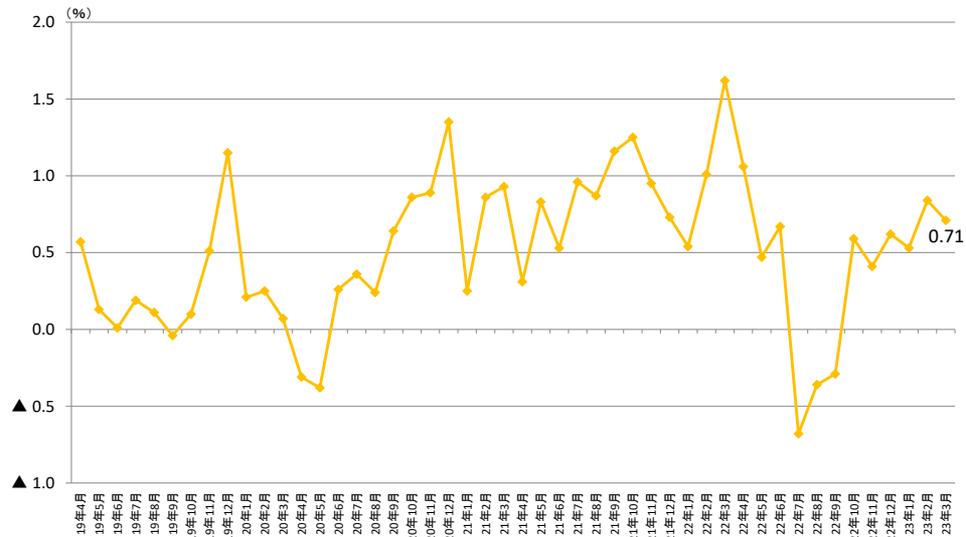
《各機関によるGDP成長率見通し》

	2023	2024
IMF (2023年4月)	+0.9%	+1.5%
伯財務省 (2023年3月)	+1.6%	+2.3%
伯中銀 (2023年3月)	+1.2%	-
伯中銀Focus (2023年4月28日)	+1.00%	+1.41%

物価の動向と政策金利

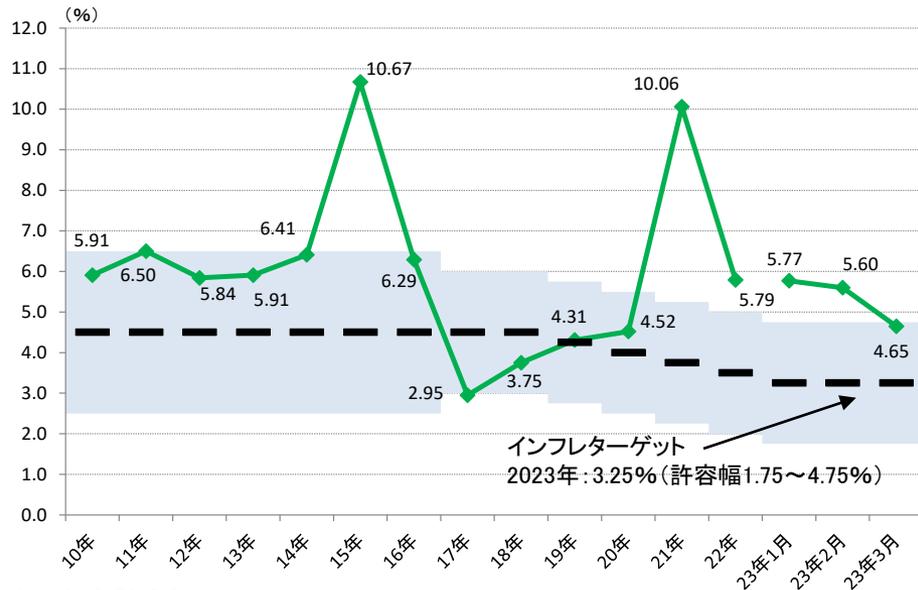
3月の拡大消費者物価指数(IPCA)は前月比+0.71%、直近12か月累計では4.65%となった。

拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の推移(各月)



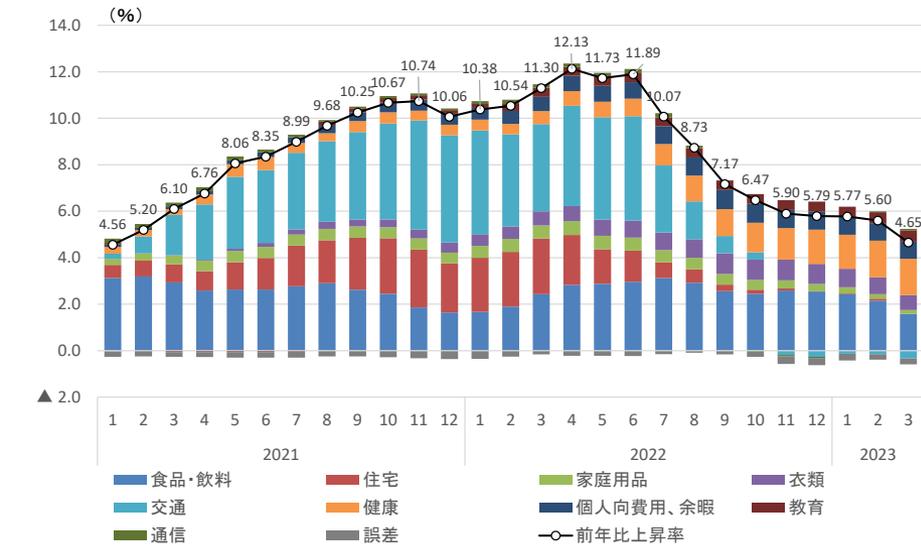
(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の推移(12か月累計)



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

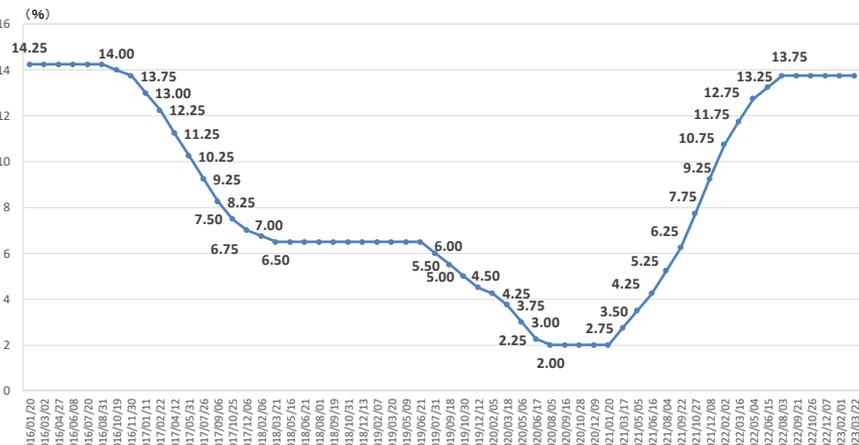
拡大消費者物価指数(IPCA)上昇率の項目別寄与度



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

政策金利の推移(2016年～)

次回伯中央銀行金融政策委員会 (Copom) は5月2日及び3日に開催。



(出典) BCB

労働市場、消費、生産、財政収支の動向

失業率の推移(3か月移動平均)

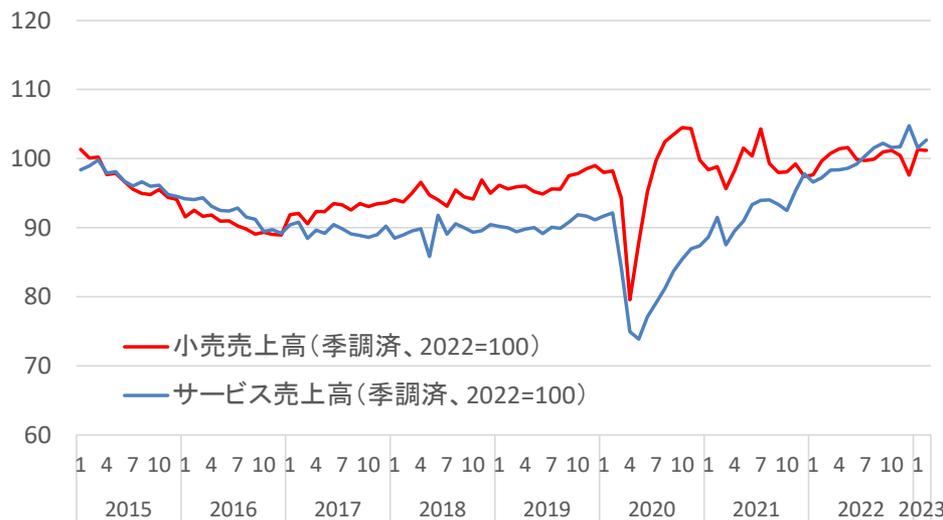
失業率(1月～3月)は8.8%となった。



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

小売・サービス売上高指数の推移(月次)

小売売上高(2月)は前月比▲0.1%、前年同月比+1.0%となった。サービス売上高(2月)は前月比+1.1%、前年同月比+5.4%となった。



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

鉱工業生産指数の推移(月次)

鉱工業生産(2月)は前月比▲0.2%、前年同月比▲2.4%となった。

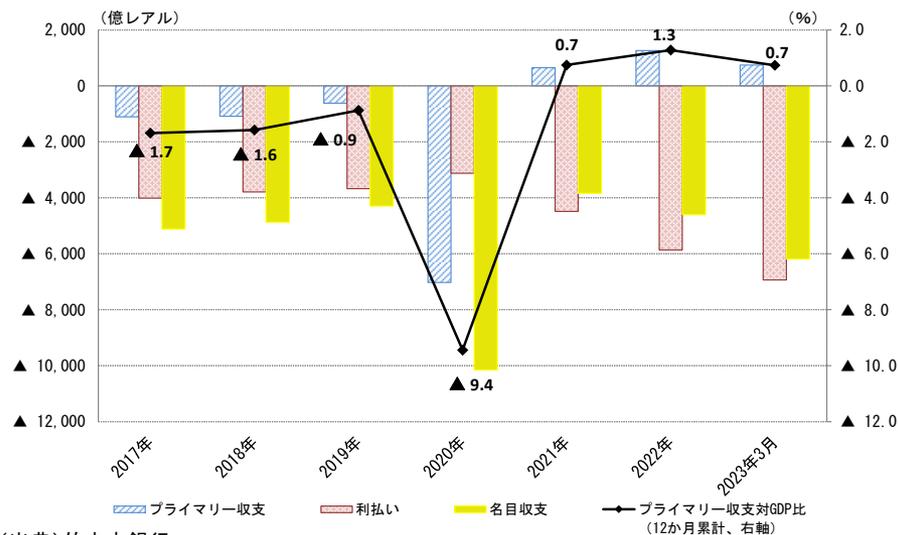
(2022年=100、季調済)



(出典) 伯地理統計院 (IBGE)

財政収支の推移(12か月累計)

公的部門の2023年3月のプライマリーバランスは748億レアルの黒字、利払いは▲6,936億レアル、名目収支は▲6,189億レアルとなった。



(出典) 伯中央銀行

国際収支の動向

国際収支

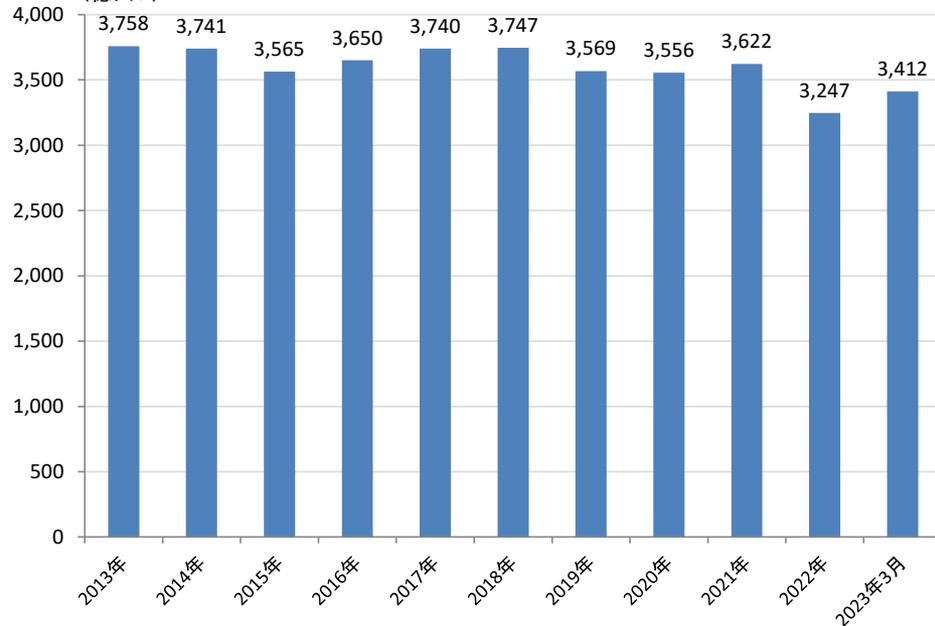
(億ドル)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 3月
経常収支	▲ 515	▲ 650	▲ 245	▲ 464	▲ 570	▲ 118
貿易収支	434	265	324	364	442	127
サービス収支	▲ 360	▲ 355	▲ 209	▲ 270	▲ 400	▲ 72
第1次所得収支	▲ 588	▲ 573	▲ 383	▲ 590	▲ 649	▲ 176
第2次所得収支	▲ 0	12	23	32	38	3
資本移転収支	4	4	41	2	2	1
金融収支	▲ 523	▲ 644	▲ 125	▲ 502	▲ 583	▲ 92
直接投資	▲ 761	▲ 464	▲ 413	▲ 302	▲ 608	▲ 135
対外直接投資	20	228	▲ 35	162	307	75
対内直接投資	782	692	378	464	915	210
証券投資	69	192	129	▲ 79	41	▲ 8
金融派生商品	28	17	54	▲ 10	▲ 20	▲ 2
その他投資	113	▲ 128	247	▲ 251	78	▲ 55

(出典) 伯中央銀行

外貨準備高

(億ドル)



(出典) 伯中央銀行

外国直接投資(資本参加分)流入額

(億ドル)



(出典) 伯中央銀行 ※貸付は除く

対外債務・債権収支

(億ドル)



(出典) 伯中央銀行

■ 対外債務残高 ■ 対外債権残高 ■ 対外債務・債権収支

為替・株価の推移

4月の為替市場は4.91～5.08レアル/ドルで推移。

月の前半は4.91～5.08レアル/ドルで推移。米国経済の動向を背景とする金融政策を巡る見通しや、新たな財政運営枠組を巡る動向等を材料にして、概ね上昇傾向で推移した。

月の後半は4.94～5.06レアル/ドルで推移。新たな財政運営枠組を巡る動向を材料に概ね下落傾向で推移した。

為替の推移(対米ドル)



4月の株式市場は100,822～106,890ポイントで推移。

月の前半は100,822～106,890ポイントで推移。国内物価動向等を材料に概ね上昇傾向で推移した。

月の後半は102,312～106,163ポイントで推移。内外の経済動向や新たな財政運営枠組を巡る動向等を材料に上下し、概ね下落傾向で推移した。

株価指数(Ibovespa)の推移



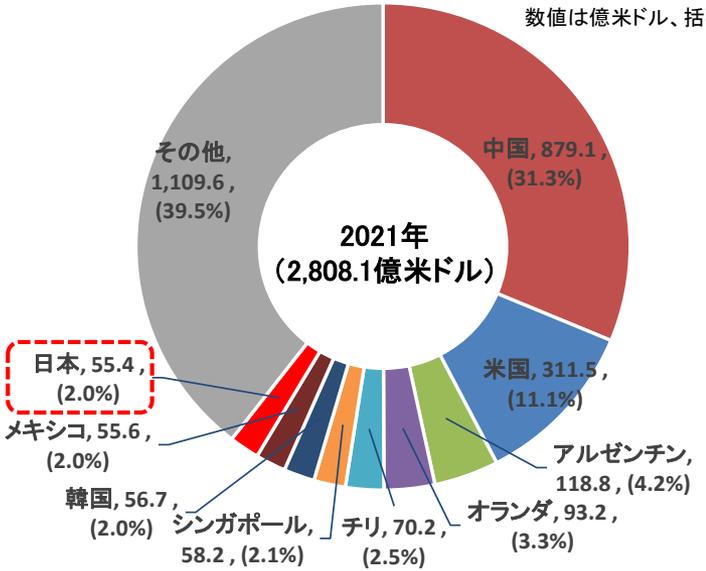
(出典) 伯中央銀行

III. 貿易動向

ブラジルの貿易は、輸出、輸入ともに中国、米国、アルゼンチンが上位に占めている。2022年においては、日本は貿易相手国として輸出で9位、輸入で10位となっている。

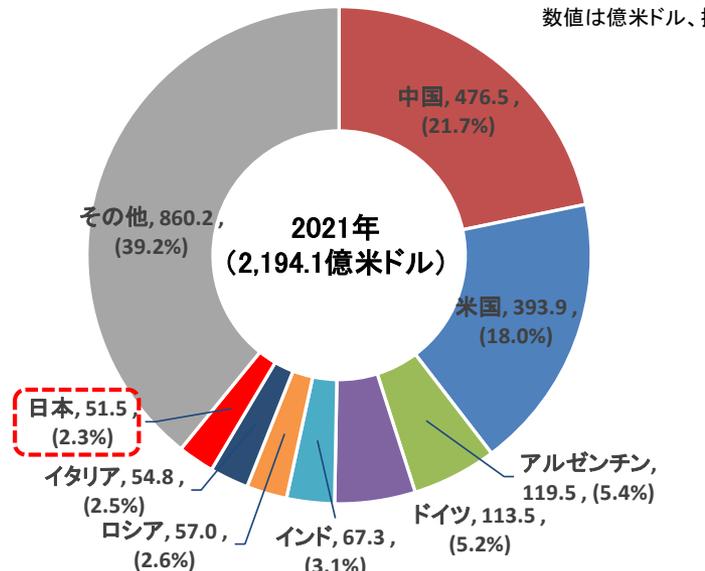
輸出額と構成比(国別)

数値は億米ドル、括弧内は構成比



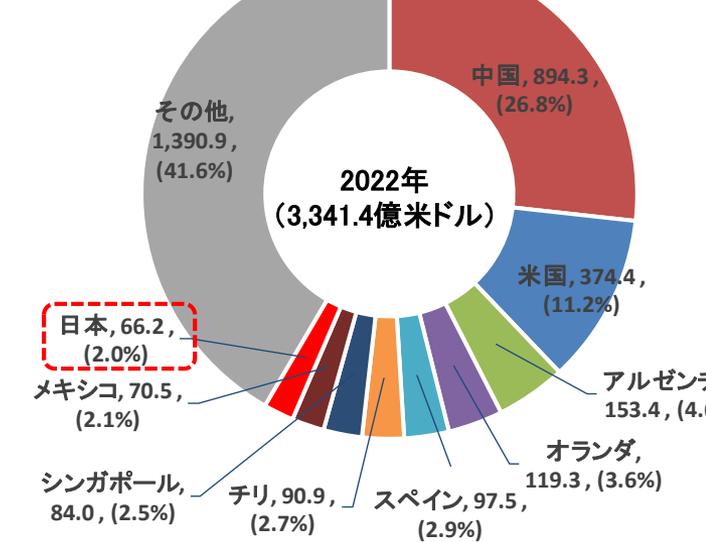
輸入額と構成比(国別)

数値は億米ドル、括弧内は構成比



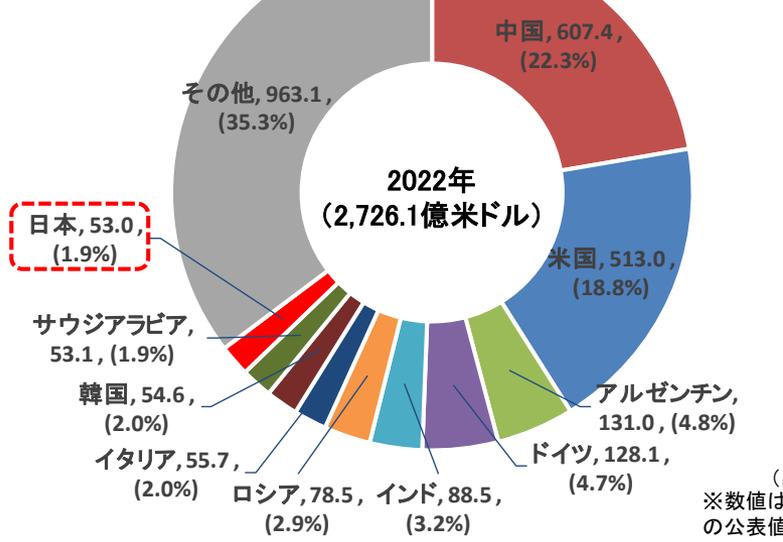
輸出額と構成比(国別)

数値は億米ドル、括弧内は構成比



輸入額と構成比(国別)

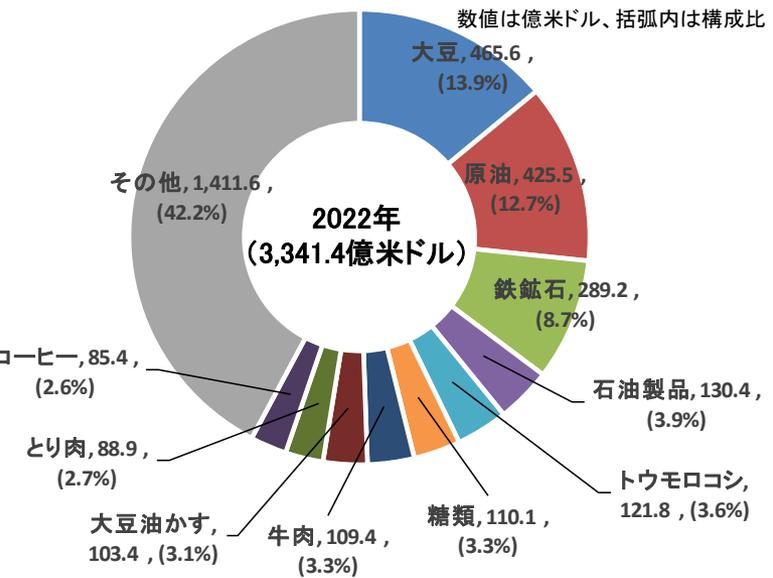
数値は億米ドル、括弧内は構成比



(出典) MDIC
※数値は2023年3月時点の公表値から算出

主要輸出品目は資源(原油、鉄鉱石等)、食品(大豆、トウモロコシ、糖類、肉類等)。主要輸入品目は石油製品、肥料、自動車部分品を中心に、電気機器など幅広い品目にわたっている。

ブラジルの主要輸出品目と主要相手国



【大豆】

	億米ドル	構成比(%)
全体	465.6	100.0
① 中国	317.8	68.3
② スペイン	19.4	4.2
③ タイ	16.8	3.6
④ イラン	13.5	2.9
⑤ オランダ	11.3	2.4

【原油】

	億米ドル	構成比(%)
全体	425.5	100.0
① 中国	165.3	38.8
② 米国	50.6	11.9
③ スペイン	35.7	8.4
④ チリ	31.3	7.4
⑤ ポルトガル	25.3	5.9

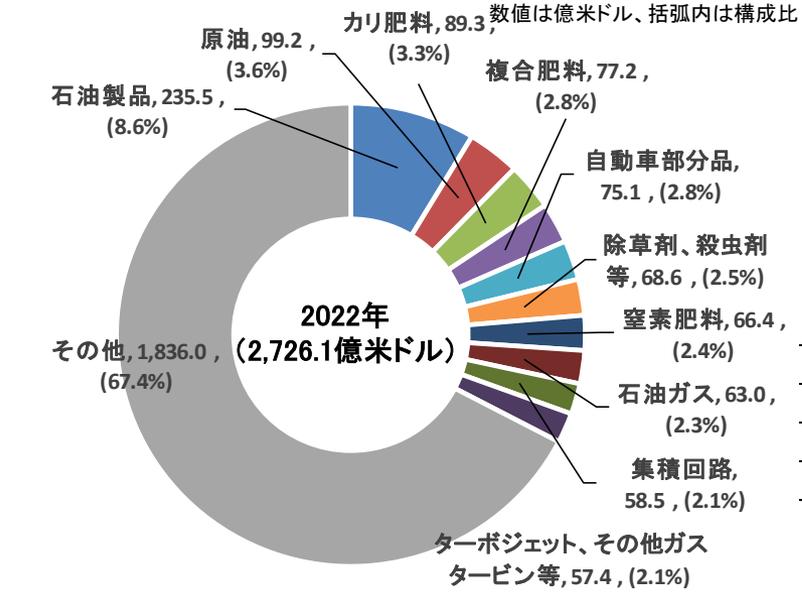
【鉄鉱石】

	億米ドル	構成比(%)
全体	289.2	100.0
① 中国	181.9	62.9
② マレーシア	15.2	5.3
③ バーレーン	13.3	4.6
④ 日本	11.0	3.8
⑤ 韓国	8.6	3.0

【石油製品】

	億米ドル	構成比(%)
全体	130.4	100.0
① シンガポール	58.6	44.9
② オランダ	8.8	6.8
③ 米国	4.9	3.8
④ ヴァージン諸島	4.8	3.7
⑤ パナマ	4.7	3.6

ブラジルの主要輸入品目と主要相手国



【石油製品】

	億米ドル	構成比(%)
合計	235.5	100.0
米国	127.9	54.3
インド	25.9	11.0
UAE	22.4	9.5
オランダ	11.7	5.0
ロシア	11.1	4.7

【原油】

	億米ドル	構成比(%)
合計	99.2	100.0
① サウジアラビア	32.0	32.3
② 米国	30.0	30.3
③ UAE	11.9	12.0
④ オランダ	5.8	5.9
⑤ ロシア	5.7	5.7

【カリ肥料】

	億米ドル	構成比(%)
合計	90.7	100.0
① カナダ	37.1	40.9
② ロシア	24.3	26.8
③ イスラエル	8.7	9.6
④ ドイツ	8.4	9.3
⑤ ベラルーシ	3.6	4.0

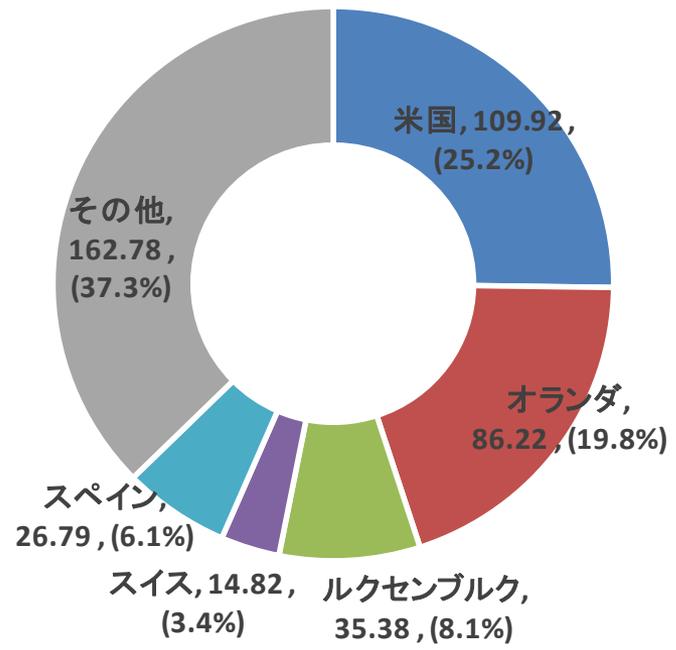
【複合肥料】

	億米ドル	構成比(%)
合計	77.2	100.0
① ロシア	22.4	29.0
② 米国	14.8	19.2
③ モロッコ	13.3	17.2
④ 中国	8.0	10.3
⑤ サウジアラビア	7.2	9.3

IV. 日伯投資

対ブラジル直接投資(資本参加分)の国別構成比 総額435.9億ドル(2022年)

数値は億米ドル、括弧内は構成比



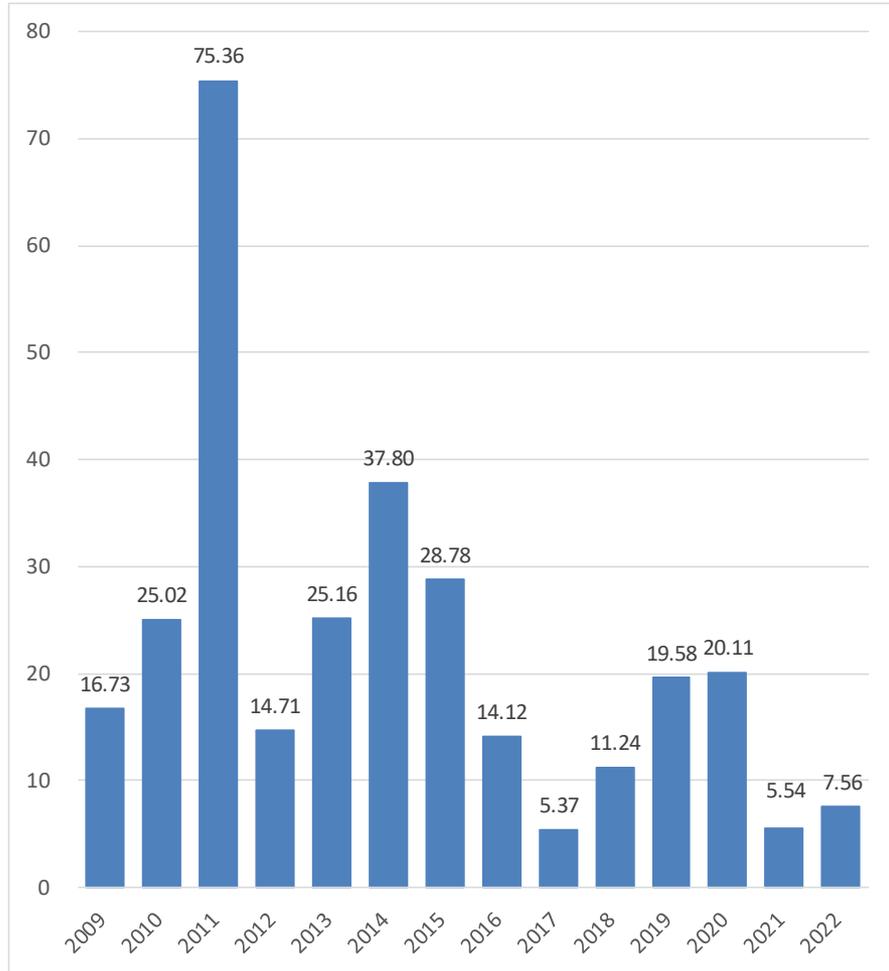
(出典) 伯中央銀行

2022年の日本の直接投資額(資本参加分)は7.56億ドルで構成比は1.73%と、10番目の規模。

※ 中国:0.35億ドル(0.08%)。但し、第三国経由の投資額が含まれていないため、実際よりも少ない数値となっている。

日本の対ブラジル直接投資(資本参加分)の推移

(億ドル)



(出典) 伯中央銀行